



# 生体情報を用いた

# 生理・心理状態の推定

生体計測, 機能評価, 感性工学

## 01 本研究の適用分野・用途

- サービス工学分野への応用: 対話者の感情・情動を推定し, 新たな視点を提供するファシリテーションの検討
- 自動車における人間工学分野への応用: 乗員の疲労度/覚醒度, 快適感などの推定

## 02 アピールポイント

- アンケートなどの主観評価の他に, 生体反応を記録することで, 無意識的, 連続的, 定量的な客観的評価が可能
- 人間がかかわる, あらゆる『モノ』, 『コト』の評価に適用可能

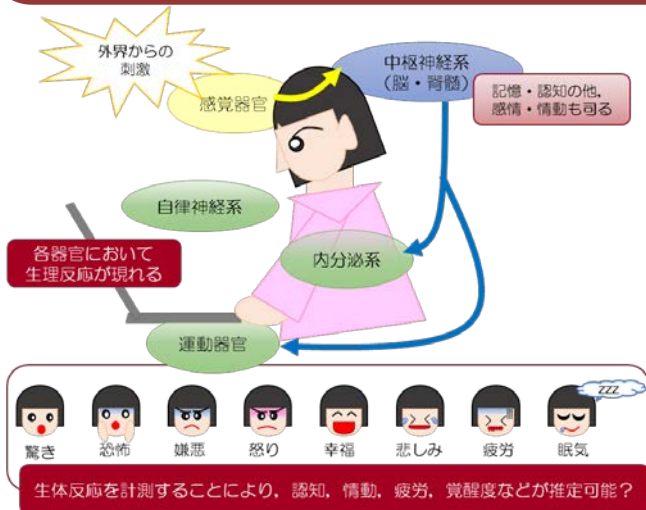
### 研究概要

生体情報を計測することにより, 生理・心理状態がわかる?

人間の情報処理のしくみは…

- ① 外界からの刺激を感覚器官(目, 耳, 鼻, 口, 皮膚など)が受け取ります。
- ② 感覚器官から脳へ情報が伝わり, 脳で認知・判断をおこないます。
- ③ 各器官には脳から指令による反応や自律神経系の活動による影響が現れます。

各器官に現れる反応を計測することにより, 感情・情動などが推定可能?



### 【計測可能な生体情報】

脳波, 心電図, 血流, 脈波, 筋電図, 眼球運動/瞬目(眼電図, アイマウ), 皮膚表面温度(接触, 非接触) など

緊張/リラックス状態がわかる?  
疲労度/覚醒度がわかる?  
認知・判断の過程がわかる?

※その他計測可能な指標もあります。  
※タスクの種類や環境により計測不可能な場合があります。

